

ボバース記念病院より作業療法士の先生をお迎えしての 事例検討会（研修）

刀根山支援学校で訪問教育を行っているボバース記念病院より、作業療法士の原真也先生をお迎えし、事例検討会を行いました。

今回は、原先生より脳性麻痺やボバース記念病院でのリハビリテーションの特色についての講義をしていただき、上肢の運動機能障がいを持つ児童の事例をもとに教材づくり（グループワーク）を通して支援の仕方や教材の工夫の仕方について検討を行いました。グループワークでは、原先生より、作業療法士の視点から教材を作る際のアドバイスや、授業を行う際の上肢の使い方、姿勢などについてのアドバイスをいただくことができました。

原先生の講義

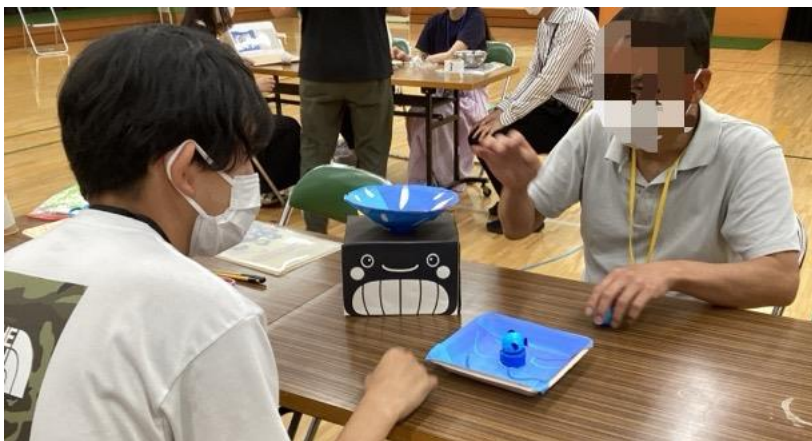
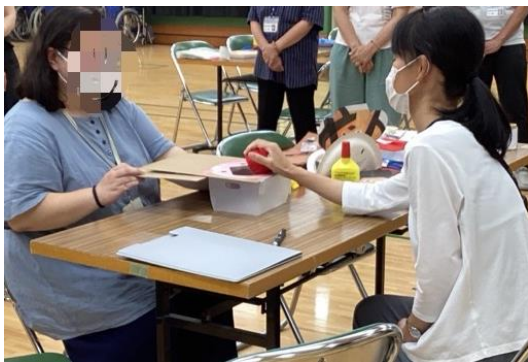
リハビリテーションの特色や連携についてお聞きしました。また脳性麻痺についてのお話では、環境の変化に影響を受けやすいこと、今までできたことを継続していくこと、運動機能を落とさないように支援、移行していくことの大切さなどについて教えていただきました。



事例検討（グループワーク）

あらかじめ、児童の授業の様子をビデオで視聴し、好きなことやできること、授業で取り組みたいことなどを確認し、「つかむ」「入れる」活動の際の発達段階に応じた扱いやすいものの工夫、「つかもう」「入れよう」とする意欲を引き出す工夫について検討しました。

児童の好きなもの、興味の持ちやすいものとして「ものがたり」「絵本」「あざやかな色」「どうぶつ」などを取り入れた教材づくりが複数ありました。また、グループで相談した内容をもとに、原先生からいただいたアドバイスを活かして、複数の素材、大きさの工夫なども行うことで、教材の幅が広がりました。各グループの発表の際には、教材のよさ、ICT の活用の工夫についてもふれてくださり、教材や支援の視点についても深めることができました。



普段から、病棟と連携し授業を行っていますが、今回お伺いした内容も、子どもたちの「やってみよう」「楽しいな」につながる授業づくりに活かしていきたいと思います。